



年頭挨拶 町立病院長 水野正巳



あけましておめでとうございます。

平成 30 年の新春を健やかに迎えのことと心からお喜び申し上げます。

平成 29 年は医療の分野でもいろいろ話題がありましたが、今回は身近な医療についていくつか振り返りたいと思います。

ピロリ菌は胃の感染症で胃炎、胃癌との関連性で注目されましたが、その他にも貧血、血小板減少など多くの原因になっていることがわかってきました。そのためピロリ菌の検査と治療がより重要になってきましたが、ピロリ菌除菌後の胃癌の発生もあり、またピロリ菌未感染では胃癌の発生はほとんどないとの報告もでてきました。

そこで全国では中学生でのピロリ菌未感染者の胃癌の発生についての長期経過観察が行われてきています。ピロリ菌の検査は、胃カメラで胃炎の所見がないと医療保険が使えず自費負担となってしまいます。そのため胃カメラが勧められますが、その所見ではほぼ感染について判定できますが完全ではなく、尿素呼気試験などが必要になります。治療法は以前は 1 週間の内服で 90% 弱でしたが、新薬も出て 95% の除菌率(1 回目)に上昇しています。

内視鏡、周辺器具の進歩により以前は外科で行われてきた治療が、開腹手術をせずに行われるようになってきました。今では胃、大腸、虫垂炎、胆嚢、膵臓まで対象になってきています。また高齢化により脳梗塞、心筋梗塞、心房細動、バイパス手術、ペースメーカー、慢性動脈閉塞など、血栓を予防するため血をさらさらにする薬を飲む人が多くなっています。通常胃の生検でも薬のため出血の危険性があるので、内服の確認のため「薬の手帳」は大事ですので受診時は持参を忘れずにお願いします。

インフルエンザは、昨年 12 月には富良野市では学級閉鎖も聞いていましたが、中富良野町では感染は少ないようです。それでも 20 年ほど前はインフルエンザワクチンは当院ではほとんど接種しておらず、12 月から 2 月にかけて肺炎の入院患者が多く入院ベッドが足りないほどでした。平成 13 年から当院でワクチンを開始し、当初年 500 人台から本年度は 1900 人台と予想されています。ワクチン後肺炎の入院患者数は激減し、秋よりも冬の 12 月から 1 月の入院患者数が少ないこともあります。それだけ効果がありますのでワクチンをまだ接種していない方はぜひ接種してください。

以上をもちまして、町民皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年にあたっての挨拶とさせていただきます。